

# 第29回家庭教育セミナー

(和賀地区・久慈地区)

今年度の第29回家庭教育セミナーは、『育もう 人と人とのつながりを』と共に学び 個性を認め伸ばし 未来に夢を『をテーマに和賀地区と久慈地区の2会場で開催しました。

和賀地区セミナーでは『沢内・生命尊重行政が今に伝えること』について、久慈地区セミナーでは『依存は子どもSOS』子どもを『知る』ことから始まる支援』についての講演から、学びを深めました。  
セミナーの内容や様子については、ホームページに掲載している「報告書」等をどうぞご覧ください。

今から60年前、西和賀町旧沢内村深澤村長のお話は、今ここに暮らしている住民の一人一人の命に向き合い、生まれてから終えるまで健康で文化的に安心して暮らせるよう、旧沢内村の三悪（豪雪貧困多病）の改善するため、一台のブルドーザーの購入から始まり、保健活動、病氣予防活動、対話をする事で自分たちが考え自治の力を生みだしてきた事などを聞き、今の時代に全て出来たら、貧困・病氣・震災等で困っている方々を始め安心して暮らせる社会になるのではないかと、コロナ禍後のコミュニティの大

切さを改めて考えさせられました。私たちが今ここにある現状を理解し、どう心豊かに暮らすのか、憲法25条(生存権)と生命尊重の深澤村長の精神が今の西和賀高校に受け継がれていて、つながることで助かる命とつなげることで未来の助かる命があると感じました。

(和賀地区母親委員)

宮原 敦子

今回のセミナーでは多くの親が今一番聞きたい講演内容だったと思います。「ダメ、ゼツタイ」は逆効果や、肯定形に言い換えることなど、日

\*

常での会話内容一つで少しでも子供に良くも悪くも伝わるということなど、すぐに実践できる内容でした。否定も肯定もしない、ゲームにコントロールされるのではなくて、自分がコントロールできることが大事だね」と伝えること。また子供だけではなくて、私たち親世代もスマホを無意識で触っています。病院の待合室を見ても、ほとんどの親がスマホを見ている光景が当たり前になっています。家族も一緒に「デジタルデトックス」することが重要と考えさせられました。

子供だけではなく、親のデジタル依存も一緒に改善していき、3つの薬「目薬」「日薬」「口薬」を意識しながら、コミュニケーションを大事にしていきたいと思います。

鈴木先生の貴重なご講演を聞いて、子供との接し方など考えさせられるきっかけとなりました。

(久慈地区母親委員)

高橋 留美

